

目的 従来、一般に使用されてきた日本女性のライフコース（ライフサイクル）のモデルは、生年の特定がないこと、0歳児の寿命のみを「平均寿命」としてきたこと、の2点において大きな欠点を持ち、「育見後期間が5倍にも伸びた」といった誤解を生んでいた。これを是正して、新しいモデルを提示することを目的とする。

方法 対象をある年に生まれた女性コーホートにしぼり、その人生の主要段階をとらえ、その時における平均余命を「生命表」で探して加算する。その一例は図のごとくである。

結果 若妻世代のライフコースと、母親世代のそれとでは、結婚時であった平均寿命が4歳違うくらいで、きわめて類似している。

しかし、どちらも祖母コーホートとはかなり異っていて、育見後の期間は2倍にのびている。すなわち、女性のライフコースは、戦前生まれと戦後生まれとで差があるのではなく、「戦前結婚世代」と「戦後結婚世代」で大きく異なるということである。

